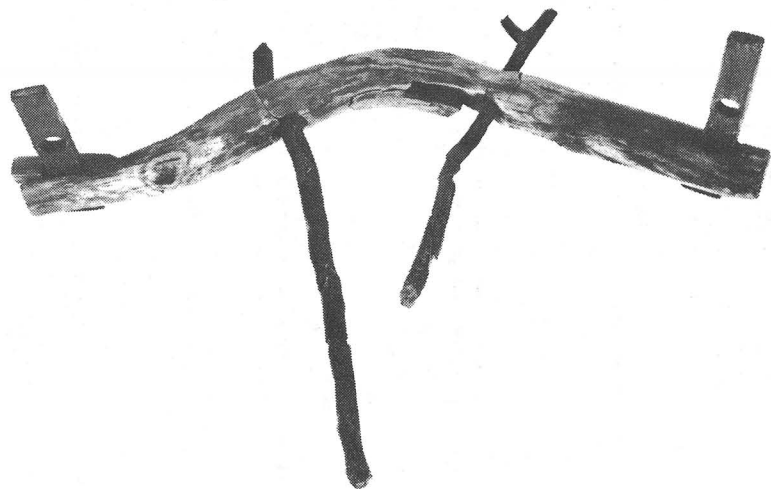


飛鳥・藤原宮発掘調査概報 4

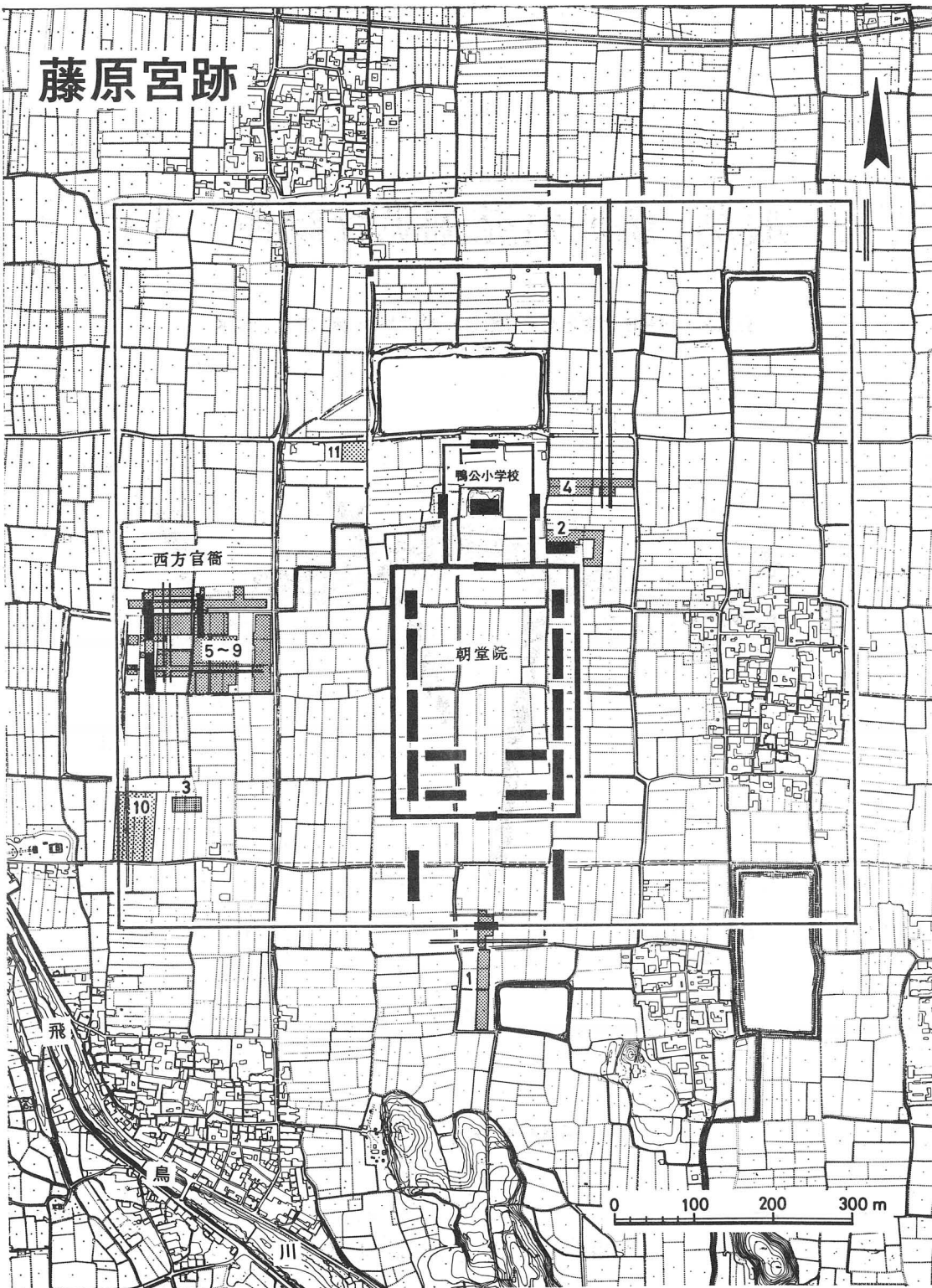
藤原宮・小墾田宮推定地・川原寺・大官大寺・藤原京南西地区



昭和49年2月

奈良国立文化財研究所

藤原宮跡



網：調査地 数字：調査次数

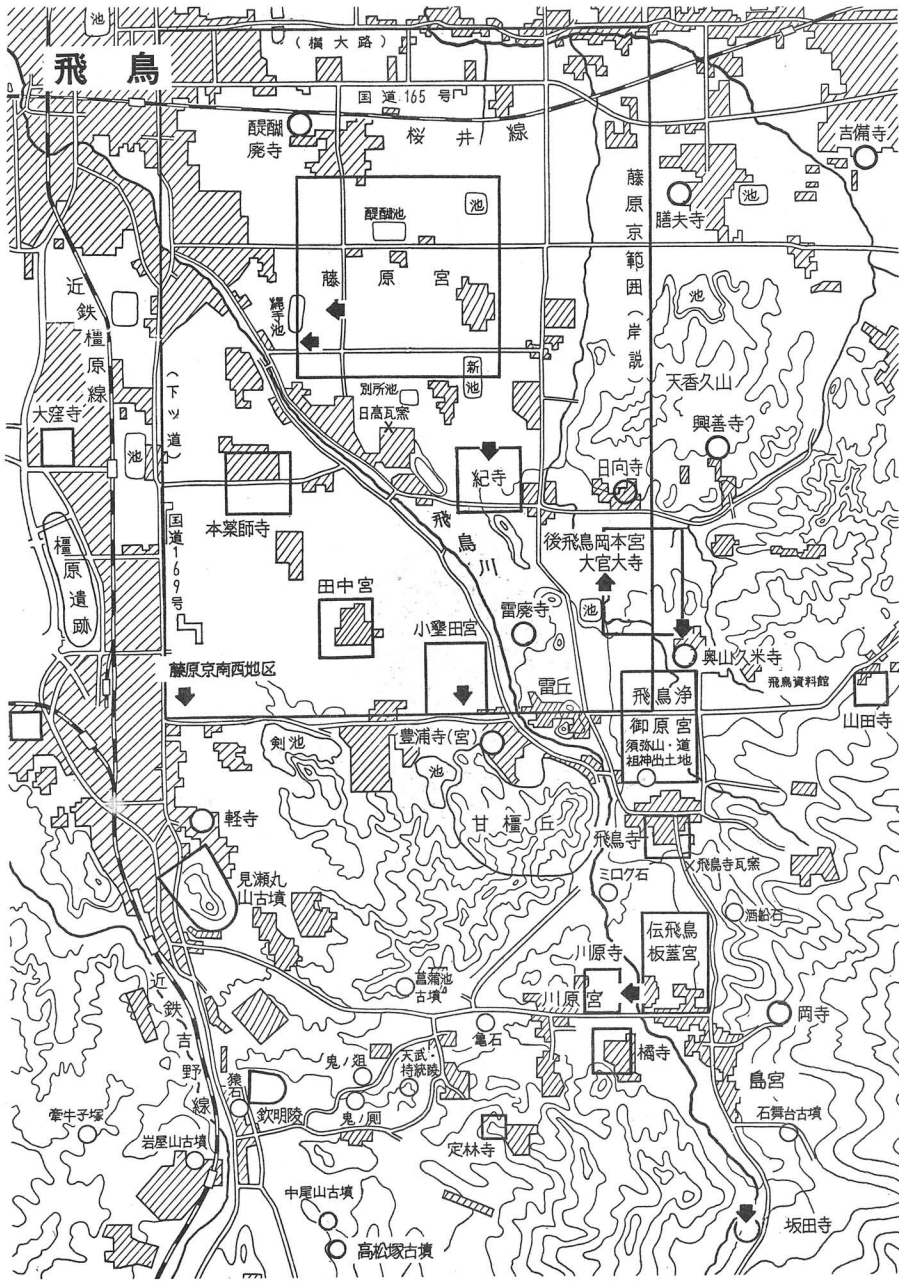
飛鳥・藤原宮発掘調査概報 4

目次	藤原宮第8・9次および10次の調査	3
	小墾田宮推定地第2次の調査	8
	藤原京南西地区の調査	15
	川原寺の調査	18
	大官大寺跡の調査	25

飛鳥藤原宮跡調査室は、昭和48年4月12日をもって、新に飛鳥藤原宮跡発掘調査部として発足した。部長以下20名余の職員を擁し、地元の方々の協力を得て、飛鳥・藤原地区の遺跡の調査研究にあっている。

昭和48年度は、藤原宮跡・小墾田宮推定地・川原寺跡・坂田寺跡・大官大寺跡・奥山久米寺跡・藤原京南西地区等で発掘調査を実施した。また奈良県と共同で紀寺跡の調査にもあっている。これらの調査は、いずれも諸工事にともなう事前の緊急調査として行なったものである。

藤原宮跡では、鴨公小学校建設地（西方官衙地区）の調査を昭和47年3月から開始していたが、48年9月で全域の調査を終了した。小墾田宮推定地の調査は昭和45年に実施したことがあり、今回はその西に隣接する地区で調査したが、石組大溝を除いては前回とくに関連する遺構は検出されなかった。川原寺の調査は整備工事にともなう行なったもので、東大門・東南院跡を確認した。坂田寺の調査は47年に引続くものであり、現在進行中である。大官大寺の調査は、寺域の北西隅付近と推定される地区で行なったが、小範囲の調査であったため、遺構の性格等は明らかになっていない。藤原京南西地区は、厩坂寺あるいは石川精舎にかかると予想される地域であるが、調査した地区は旧河川にあっていた。奥山久米寺はいずれも家屋改築にともなうものであり、小範囲の調査にとどまった。



矢印；調査地

表紙カット 表 藤原宮第10次調査出土クピキ (全長82cm)

裏 同上 軒丸瓦・軒平瓦

